

文学を深く
読むため

毎月末発売

010

新たな知をリードする

【知の新書】

山崎正純

現代日本文学の考古学

アルケオロジ

言語空間の読み方

文学・思想・歴史を横断する文学研究の冒険。
文学の言語空間の内在性に外在的な歴史的現在
性を読み解く。現在に潜む深い水脈を知る！

現代文学の主題の核心には、その時代の思想的臨界点が必要
映し出される。臨界を超え、時代の基軸が揺らぐとき、文学
は更新されていく。現代の文学の深部には、時代の基軸の揺
らぎによってもたらされた異なる地層が幾重にも折りたたま
れて沈んでいる。文学のアルケオロジは、現代文学の深層
にある断絶と連続を探ろうとする試みである。

文学と向き合おうとする人たちへの、格好の導きの書！

文学は、世界だ、哲学だ、人の渾身の生き様だ！

生きることを問う、迫真の文学読解！

1935年を前後する文運隆盛の時期に、戸坂潤は文学の観念性が世界の大状況に直接保る特権的知識だと自画自賛する「文学幻想」を批判した。戸坂による「文学主義」批判は、自由主義、資本主義が大きな試練に晒され変容を余儀なくされた時代の病弊を鋭く抉るものであった。

そして現代もまた当時と同じ試練の前に文学研究は立たされている。文学は世界の単純な輪郭をトレースした構造に近づき、アニメやゲームに近接してゆくようにも見える。文学を社会領域の内部に連れ戻すためには、文学研究が社会システムの生産する疑似現実を相対化する批評性を獲得するべきであろう。

文学・思想・歴史を貫く実践的方法を提起する批評的一書である。

【赤版、青版、緑版 1430円】

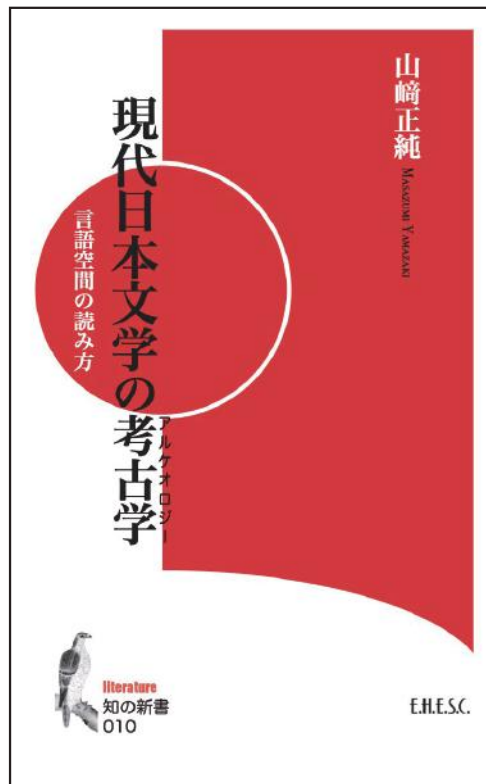
- | | |
|--------------------------------------|--|
| 001 山本哲士 甦えれ 資本経済の力 文化資本と知的資本 | 006 ボルトンスキー 道徳判断のしかた 告発 / 正義 / 愛 / 苦しみと資本主義の精神 |
| 002 矢野雅文 科学資本のパラダイムシフト パンデミック後の世界 | 007 河北秀也 場所のこころとことば デザイン資本の精神 |
| 003 松下和夫 気候危機とコロナ禍 緑の復興から脱炭素社会へ | 008 坂井秀夫 歯は人生を左右する 歯科治療の誤りを正す |
| 004 吉本隆明 超資本主義の現在 | 009 山本てつし 007/ジェームズ・ボンド論 B11 村瀬永裕 ホスピタリティ・オペレーション G01 琴寄政人 大震災・原発事故からの復活 |
| 005 浅利 誠 ジャック・デリダとの交歓 パリの思索 | |

既刊新書

2022年1月20日発売

文化科学高等研究院出版局

ehescjapan.com を参照



内容

第一章 漱石の水脈——記憶と忘却の文学論

第二章 堀田善衛の詩文——戦中と戦後の間

第三章 原民喜「夏の花」——灰白色の文学

第四章 村上春樹「レキシントンの幽霊」——甦りの挫折

第五章 津島佑子『半減期を祝って』——記憶のアルケオロジ

第六章 柳美里『JR上野駅公園口』——天皇・ホームレス・浄土真宗 column 現代日本文学の世界性

192 ページ 新書
定価 1430 円 (本体 1300 円+ 10% 税)
ISBN 978-4-910131-25-2
C1295

山崎正純 (やまさきまさずみ)

1960年生まれ。大阪府立大学教授。九州大学文学部卒。同大学院博士後期課程満期退学。博士(文学)。「小林秀雄論ノート」、「太宰治のディスクール」等の連載評論、敗戦後文学、戦後在日文学等の論考多数。女性研究者の研究成果を発表する場を確保する目的で、2007年に「論潮の会」を立ち上げ、機関誌『論潮』を創刊。吉本隆明の言語論、竹田青嗣の欲望論を軸として、1930年代以降の日本文学を対象に、文学、思想、歴史を貫く言語表出史を構想する。著書に『転形期の太宰治』、『戦後〈在日〉文学論』、『丸山真実と文学の光景』(以上洋々社)、『文学的身体と歴史』(EHESC出版局)がある。



書店での注文はJRCへ Fax.03-3294-2177

文化科学高等研究院出版局 tel.03-3580-7784 fax.03-5730-6084

現代日本文学の考古学

言語空間の読み方

山崎正純

定価 1430 円

新書

貴店名

部数

ISBN 978-4-910131-25-2

C1295

¥1300E